

# 算命学中庸

## 【初年】 30回目

30回目の授業はこのページからです。

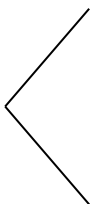
授業科目 【十大主星特性②】

【初年】 30回目 【十大主星特性②】 01

⇒ 鳳閣星・調舒星

ほうかくせい ちょうじょせい  
鳳閣星と調舒星は伝達本能の星です。

伝達本能にも（陽）と（陰）があります。

伝達本能  + 鳳閣星  
- 調舒星

ちなみに、鳳閣星という文字を省略して、ただ 鳳 とだけ書くことが多いです。これは十大主星すべてにいえます。

〔鳳閣星の 鳳 の場合は、はくずして書く人が多いです〕

調舒星は 調 とだけ書くわけです。

貫索星なら 貫 とだけ、石門星なら 石 とだけ書きます。

⇒『伝達本能』の伝達というのは、なにかを相手に、伝えようとする本能です。

自分の考えとか、自分の気持ち、あるいは自分の知識とか、それらを誰かに伝えたいとする本能です。

楽しいことがあれば「こんな楽しいことがあったのよ——」と、誰かに話したくもなるでしょう。

いま  
現在、自分が苦しい思いをしていれば、苦しい胸の内を誰かにわかってもらいたい。そういうこともあるでしょう。それも伝達本能です。

（陽）と（陰）は、主体性のあるほうが（陽）という原則がありますから、どの本能も主体性のあるほうが（陽）として考えていくわけです。

☞ 伝達本能をもう少し深く考えてみましょう。

“怒ったとき”のことを、想像していただきたいのです。

〔たとえば〕④に怒りをおぼえたとき、あるいは⑤に不満を抱いたときなど、その怒り・不満を④と⑤に、直接言いたい、ぶつけたい、そのように思うときもあるでしょう。

〔なにかを伝える……〕その手段・方法にも大きく分けて2種類の伝え方があるといえます。

——怒っている状況の1つ目として：

**怒ったとき、相手に直接文句をいう**

「なんでこんなことしたのよ」とか「こんなふうにされて、すごく不愉快よ」とか、そのままストレートに相手に文句をいう。このような怒り方があります。

——怒っている状況の2つ目として：

文句をいわない。そして口をきかない。

**文句をいわないけど ⇒ 口をきかない**

当人が口をきかないので……相手から「なに怒ってるの」といわれて、「怒ってなんかいないわ」と応えていながら、怒っているわけです。

いかがですか……このような怒り方ってありますよね。

怒っているとき、「わたし怒ってるのよ」と、直接いう場合もあれば——逆に、実際は怒っているけど、それを表現しない、口をきかないで黙り込んだり、あるいは、相手からき訊かれても、わざと違うことをこたへえたりする。というような怒り方があるかとおもいます。

どなたも、両方の怒り方を経験したことありません？

この“怒り方”を陰陽で分けた場合、主体性がある怒り方はどちらになるでしょう。

そう、直接的な怒り方ですよ。

主体性のあるほうが 十

主体性のないほうが 一 です。

“怒ったとき”直接相手に対して、自分が思ったとおり、感じたとおりに文句をいう。

ストレートに感情を表現する怒り方は主体性があります。

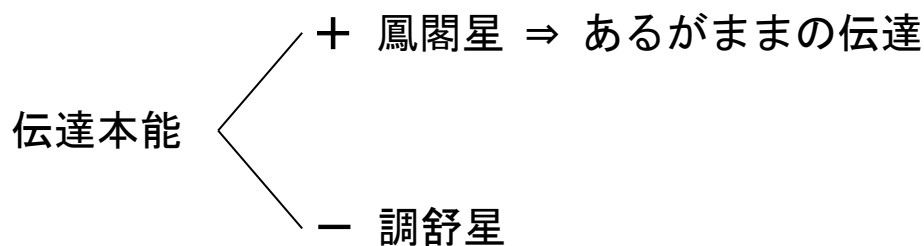
それがよい、悪いは論じていませんよ。

相手から話しかけられても、<sup>こた</sup>応えなかったり、怒っているのに、怒ってないと<sup>こた</sup>答えたり、このような怒り方に主体性はないですね。

ここでは“怒り方”をたとえにただけで、〔鳳閣星・調舒星の人は怒りっぽい〕という意味ではないのです。

怒ったときに、直接——相手に文句をいう状態は、相手に対して、自分のあるがままの気持ちを伝えようとしている姿だと考えられます。

そうしますと、鳳閣星には主体性があります。



怒ったときは、あるがままに怒る。

嬉しいときは、あるがままに喜ぶ。

やる気がないときは、あるがままにやる気がない状態をだす。

鳳閣星は喜怒哀楽の感情をそのまま表現する傾向があります。

このような直接的伝達が鳳閣星です。

☞ 調舒星は—— 怒っているのに“怒ってる”とはいわないのです。

文句をいわないし、口をきかなかったり、あるいは、わざと違うことで応えたりします。そういう怒り方です。

表現がチョット難しいのですが……、

**調舒星 ⇒ あるがままでない伝達**

というふうに考えています。

☞ これらは、鳳閣星のあと、調舒星のところでもう少し解説します。

鳳閣星（陽）の伝達は、あるがまま相手に伝えようとする。

調舒星（陰）の伝達は、あるがままでない伝達をする。

このような違いを、まずは頭に入れておいてください。

それでは〔鳳閣星〕から始めます ➡

## ☆ 鳳閣星

鳳閣星 ⇒ 伝達（陽）

鳳閣星は伝達の陽です。ゆえに“あるがままの伝達”だと、そのようにおもって読んでください。

鳳閣星 ⇒ あるがままに伝える

あるがままの伝達ですから、ありのまま伝えようとしします。自分の気持ちや考えに正直で、存在する状態の通りに表現しようとしします。

何かを伝えるときに、見たとおりに伝達するという主体性があります。

鳳閣星はあるがままに自分の気持ちを出そうとししますから、自然な生き方にもなって来ると考えています。

あるがまま自然に生きようとする

そのような性格の人になります。と考えるわけです。

自分の気持ちに正直な星で、あるがままの状態を伝える、

自分の気持ちに正直である

やりたくなければやらない、気持ちに乗ってくれば一生懸命やります。わざとそのようにしているわけではありません。

### 無理をしない・成行きまかせ

無理をせず、成行きにまかせて、やっていけばいい……、基本的にそういう性格の人です。

無理にやる気を引き出そうとはしないのです。

なんとなくやっていけばいい、という質をもっています。

無理して自分の気持ちの思いと違う自分を出そうとしません。

こういう性格の人が、どのような環境のなかで暮らしていくのかはそれぞれです。

〔たとえば〕寒いところに行けば、寒いなりに自然に則して生きる。

暑いところに行けば、暑いなりにやっていけばいい。

そういう考え方、生き方が出来る人です。

お金が無ければ、なんとか工夫してやっていきます。

お金があれば、あるなりの生活をしていくタイプの人です。

これは鳳閣星に限ったことではないかと思いますが――



鳳閣星の場合は、ほかの星に比べて、自分のおかれた境遇に神経質にならないといえます。

それゆえに、鳳閣星がいくつもあるとか、主星が鳳閣星の人は、大体どのような環境におかれても生きていけます。

### **環境に順応しやすい**

田舎に行けば、無理せずに田舎暮らしに馴染めます。

都会であれば、都会の生活に馴染めます。

無理をしなくても、適応できる質といえます。

### **楽天的〔何とかなるさ……という考え方ができる〕**

このような考え方ができるのは、鳳閣星をもつ人の強さでもあるのです。

——鳳閣星の人で、幸せな人生を歩んでいる人もいれば、鳳閣星の人で、苦しい状況に置かれている人もいます。

かりに、苦しい状況とか、悲惨なことが起こったりして、人生が思うように行かない状況であっても……なんとかなるよ、なるようになるさ、とおもえる人なのです。

特に苦しいときほど、惨めで不幸なときほど、このような

心境になります。それができるのは鳳閣星の強さであり、特徴です。

もっと極端に言えば「どうしようもなければ死ぬだけだ」と、そのくらいの開き直りができる星です。そうになると、いかに苦しいときでも乗り越えられます。

自分の気持ちに正直だとか、無理をしないとか、成行きまかせとか、環境に順応しやすいとか、最後はどうにかなるさ、そういう考え方ができる人という意味で、いろいろと挙げたわけですが、これらのことを一言でまとめると——「のんびり星」といわれています。

## のんびり

成行きまかせで、無理せず、自然にやっ行って行こうとする人ですから、のんびりした性格です。

無理せず自然の成行きまかせで、自分の気持ちに正直だというふうに捉<sup>とら</sup>えてください。

これは“怠け者”とは違いますよ。

〔たとえば〕どうしても、仕事を終わらせなくてはいけない事情があり、その締め切りが明日までだとします。

締め切りが、明日に迫っているのに、「やる気がせず、気持ちも乗ってこない……」となると、鳳閣星に限ったことではなく、だれでも切羽詰まってきますよね。

鳳閣星……本当のギリギリになるまでやろうとしません。

まわりの方は〔なんとまあ、のんびりした人〕と、おもうでしょうし、首も傾げる<sup>かし</sup>でしょう。

しかし、自分のやる気が乗ってきたときは、一生懸命やります。ゆえに、怠け者とはチョット違うわけです。

鳳閣星がある人のすべてがそうだとは言いきれませんが、——小説家とかで、原稿がいつも遅れる場合は、締め切り日が迫ってくると、編集者が家に押しかけたという話は、昔はよくあったそうですが、物書きには、鳳閣星をもつ人が多いからでしょう。

成行きまかせでやって行けばいい……そのような考え方・気持ちを内在している星ですから、まわりの人から見ると、のんびりした人、あるいは温厚なタイプに見えます。

外面・表面的には“のほほん”としていて、悪くいえば、ちょっとボーッとした人と、そのような印象も受けるかもしれませんが、観察力は鋭いです。

**観察力の鋭さ ⇒ まわりからは見えにくい**

なにかを伝えようとする星なので、<sup>びょうしゃ</sup>描写は上手です。ほかの星よりも、表現力のある星です。

**表現力はすぐれている**

しゃべって伝えるにしても、ものを書いて伝えるにしても、客観的に表現する力が、ほかの星よりすぐれています。

表現力が優れているということは、事象を的確にとらえて描写できるわけですから、観察力がなければできません。

ピント外れの表現をしていたのでは、表現がすぐれているとはいえませんよね。

なにかを観察して、その事象の中心点・焦点をきっちりと<sup>つか</sup>掴みます。

その感性の鋭さをまわりからは見えにくいのです。

ゆえに—— 内面の神経は細かい ⇒ 鋭い

外界の印象を受け入れて、ものを感じとるチカラは鋭敏<sup>えいびん</sup>ですから、ものの描写をゆたかに表現できます。

そういう能力は秀でています。

⇒ 鳳閣星を人物になおすと、子供の星という意味があり、星そのものも、子供っぽい面があります。

子供の星 ⇒ 子どもっぽい面をもつ

なるようになるさ……それは子供っぽい性質とも考えられます。

自分の気持ちに正直で、直接的な伝達をしますから——  
生意気に見えるとか、凶々しく見える、ということもあります。

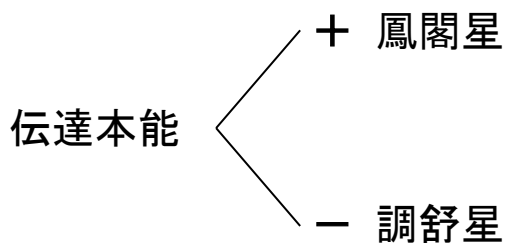
なまいき      ずうずう  
生意気 ⇒ 凶々しい

そのように思われたりすることは、多々あるでしょうが、子供っぽい面をもっていますので、ときには素直です。

飾り気のない質をだしますので、子供が素直になったときのような面を見せます。

すなお  
素直

⇒ 鳳閣星と調舒星は、(陽)と(陰)の違いはありますがともに伝達本能の星です。



陽と陰の違いはあっても、どちらも伝達を主とするような職業に向いています。

**伝達を主とする仕事に向いている**

もう少し具体的にいえば……。

**話す仕事**

アナウンサーでも、ナレーターでも、ウグイス嬢でも、とにかく話す仕事、しゃべる仕事などに向いています。

ほかにどのような仕事があるのかといえば：

表情・身振り・動作などを客観化して、外面的な姿として表現する質を内在していますから、それを描き出す分野に向きます。

**芸術家 ⇒ 芸術的才能を必要とする仕事**

〔たとえば〕画家は絵を描くのが仕事です。

絵を描くというのは伝達です。自分の気持ちとか、人生の喜びとか、人生の悲しみとか、それをキャンバスに描いて、外部から見えるように表現するのが画家ですよ。

✽ アリータ・アンドレ (Aelata Andre) 2007-1-9

大運は2歳運の逆まわり

	癸	辛	丙		司禄星	天堂星	2 庚子
辰	卯	丑	戌	鳳閣星	貫索星	龍高星	12 己亥
巳		癸	辛	天貴星	龍高星	天南星	22 戊戌
		辛	丁				32 丁酉
	乙	己	戊				42 丙申

☞ ぜひ、ネットで検索して、少女の絵を観ていただきたいです。

✽ 芥川 龍之介 1892(M25)-3-1 1927(昭2)-7-24 [35歳没]

大運は2歳運の順まわり

	壬	壬	壬		貫索星	天庫星	2 癸卯
午	辰	寅	辰	車騎星	鳳閣星	車騎星	12 甲辰
未	乙	戊	乙	天庫星	石門星	天胡星	22 乙巳
	癸	丙	癸				32 丙午
	戊	甲	戊				42 丁未

✽ 志村 けん 1850(S25)-3-1 2020(令2)-3-29 [70歳没]

大運は5歳運の順まわり

	丙	戊	庚		禄存星	天庫星	5 己卯
午	戌	寅	寅	鳳閣星	龍高星	龍高星	15 庚辰
未	辛	戊	戊	天庫星	鳳閣星	天胡星	25 辛巳
	丁	丙	丙				35 壬午
	戊	甲	甲				45 癸未
							55 甲申
							65 乙酉





✽ 石原 裕次郎 1934(S9)-12-26 [1987-7-17] 52歳没

大運は3歳運の順まわり

	癸	丙	甲		調舒星	天堂星	3 己卯
戌	酉	子	戌	龍高星	貫索星	牽牛星	13 庚辰
亥			辛	天胡星	司祿星	天祿星	23 辛巳
			丁				33 壬午
	辛	癸	戊				43 癸未
							53 甲申

✽ 渡 哲也 1941(S16)-12-28 [2020-8-10] 78歳没

大運は8歳運の逆まわり

	庚	庚	辛		石門星	天貴星	8 己亥
寅	戌	子	巳	龍高星	調舒星	車騎星	18 戊戌
卯	辛		戊	天堂星	貫索星	天極星	28 丁酉
	丁		庚				38 丙申
	戊	癸	丙				48 乙未
							58 甲午
							68 癸巳
							78 壬辰

絵で表現してもよいし、<sup>かしょう</sup>歌唱で表現してもよいし、音楽で表現してもよいし、表現の方法はなんでもよいのです。

歌手といっても、ただ歌がうまいから歌手に向くとは限らないわけです。

ただ、うまいだけでなく、その歌唱のなかに人生の悲しみとか、悦びとか、そのような感情の起伏まで、伝えられる歌手のほうが優れた歌い手といえるでしょうし、多くの人に認められるはずです。

楽しい詞<sup>し</sup>を歌ったときに、楽しい雰囲気<sup>し</sup>が伝わって、聴く人まで楽しくさせる才能は聴衆の支持をうけます

話す仕事は伝達ですけど、ものを書くということでもよいのです。

〔鳳閣星〕あるいは〔調舒星〕をもつ人たちが、必ずしもいい声をしているとは決まっていませんよね。

なかには、声が悪い人もいるはずです。

そうしますと、話す仕事に就きたいと思っても、声がよくないとすれば、そういう人は試験を受けても落ちてしまうでしょう。……書く仕事を選択するのも方法です。

ものを書いて伝えるのも伝達です。

### 書く仕事（作家・マスコミ関係など）

作家でとか、編集者とか、マスコミの世界・記事を書いて伝える。そういうことに携わる仕事、コピーライターでもいいです。それらは伝達の範疇です。

伝達を主とする仕事で、もう一つ代表的なのがあります。

### 先生 ⇒ 教えること

学校の先生は、生徒に勉強を教えるのが仕事です。

先生が培<sup>つちか</sup>ってきた知識とか、技術とか、経験とかをいかにうまく生徒に伝えられるのか——それは先生の素質です。

最近——学校の先生に、教えるのに疲れたとか、ノイローゼになるとか、学校の先生が登校拒否になっているという報道されたことがあります。

つまり、一流大学を出て、すごく頭がよい人であっても、先生に向いているのか、どうかは別なのです。

ここに挙げた——話す仕事・芸術の仕事・書く仕事とか、

あるいは、教える仕事、それらの仕事に就くのなら、まず少なくとも、鳳閣星・調舒星のどちらか1つは必要と考えています。

すべてとは言い切れませんが、基本的にそのように考えて頂いて結構です。

「鳳閣星か調舒星が1つもないと、これらの仕事を継続するのは難しいですよ」あるいは「向きませんよ」と占うことは多いです。

その人は優秀で学校の成績が良かった——それは別です。学校で毎日毎日教えるわけですから“教える”そのことが好きじゃないと——つまり無理せずに教えられるような宿命の人でなければ、続かないと考えているのです。

☞ 鳳閣星を人物でいうと——、

鳳閣星の人物 ⇒ 子ども・目下

鳳閣星は子どもの星、目下の星という意味があります。

〔鳳閣星は陽の星だから男の子〕というふうに、占う場合もありますけど、男の子・女の子とかの性別に関係なく、〔子供の星〕という意味があります。

鳳閣星は子供の星だと、まずはそう考えておいてください。  
調舒星（陰）もおなじように考えます。

子供運を占うとか、親が子供と縁があるのか、ないのか、  
という占いをするようになって行きますけど、そのときは  
鳳閣星・調舒星をつかって、観ていくようにもなります。

さきほどから、鳳閣星はあるがまま自然に生きようとする  
星だといいましたように、自然思考といわれます。

### 思考法 ⇒ 自然思考

そんざい  
存在するとおり生きる、のんびり成行きにまかせて生きて  
いく、そのような考え方をする星なわけです。

ゆえに鳳閣星の人が、実際に、そのような心境でいられる  
ときは、この人本来のよさが出ます。

☞ 「宿命道理 しゅくめいどおり」「宿命通り しゅくめいどうり」

その言い方がたびたび出てきました。

宿命道理に宿命に沿って生きることは、その人にとっての  
良い在り方なって行きます。

しゅくめい とお  
宿命の通りに生きないと、宿命が苦しむし、本人も苦しむ  
のです。

参考・在り方（ありかた）あるべきすがた

参考・道理（どうり）物事のそうあるべきすじみち

参考・通り（どおり）道などに沿ってとおること

本来の宿命の『分』<sup>ぶん</sup>を超えるほど、出世するとか、偉くなるとか、財産が増えとか——そうになると却<sup>かえ</sup>って、その事象が、その人自身の人生を苦しめるようになります。

「個々の宿命には『分』<sup>ぶん</sup>があり、その分を超えると、宿命から外<sup>はず</sup>れたことになる」このような考え方が、算命学にあるわけです。

このことは、いずれ「五徳」で勉強するようになります。

参考・分（ぶん）その領域・範囲・分け与えられた性質

<sup>しゅくめいどうり</sup>“宿命道理”ということでは…… 鳳閣星の人なら、ここに紹介した意味合いを有していますので、それを活かした生き方をすると、<sup>しゅくめい</sup>宿命の<sup>とお</sup>通りになるわけです。

あるがまま自然に生きようとする  
のんびり成行きにまかせて生きていく  
→ こういう心境で生きて行くことが宿命の通りといえます。

ゆえに、鳳閣星をもつ人は、このような心境になる場合が多いのですが、実際にこの心境で生きていくと、大変にこの人らしい良さが出せます。

のんびりしていて、落ち着きがあって、温厚で、おだやかで、いい人だなと、周囲からも見えるでしょうし、また、そのほうが本人も自分の実力を発揮できます。

逆に——応用して考えるときは、つぎのように考えます。  
この人やっつけようと思ったら、あるいはこの人を、苦しめようと思ったら、どうしたらいいでしょう——？

つまり、のんびり成行きにまかせて生きていけないようにすればいいわけです。鳳閣星の人は、まわりから<sup>あせ</sup>焦るよう



にされるとか、急<sup>せ</sup>かされたりすると、イライラしてきて、鳳閣星本来の心境になれなくなります。

そうになってしまうと、実力を出せなくなります。

やらないでくださいね。やってはダメですよ。

⇒ 鳳閣星が主星のお子さんが生まれたとします。

3歳頃になると物心がついてきます。

その頃は、子供本来の質が出てくる時期でもあります。

また小学校に行きますと、宿題も出てくるでしょう。

そこで—— そのお子さんがのんびりしていると、親御さんが、「なにのんびりしてるの、早く宿題やんなさい」とか、「勉強しなさい」とか言って、毎日、急<sup>せ</sup>かしたり、すれば、その子供は、親の意見・叱責<sup>しっせき</sup>に応じた行動をとらなければならぬように、焦<sup>あせ</sup>らせてしまう（追い込んでしまう）ということもあるでしょう。

そうしますと、鳳閣星の子供は、却<sup>かえ</sup>ってやる気がなくなります。やる気をなくしてしまいます。

鳳閣星の子供はのんびりでマイペースですけど、やる気になったら一所懸命やろうとする。そういうタイプです。

それなのに、のんびりしているという、その一面を見ただけで、親がこの子に、「宿題どうしたの、やったの」とか、いって焦らせるとか、急き立てるとかすると、実力を出せなくなります。

せいらい  
生来の素質を破壊してしまうことにもなります。

鳳閣星の子どもが生まれたら、そこに気をつけて育てないといけません。

口うるさいお母さんのところに産まれたりすると、鳳閣星のお子さんは本当に可哀相です。

つぎは調舒星です ➡

## ☆ 調舒星

調舒星 ⇒ 伝達（陰）

調舒星は伝達の陰です。

“あるがままでない伝達” そのようにおもってください。



無形の伝達

というような言い方をします。

調舒星はチョット理解しにくい面がある星なのです——  
あるがままでない伝達をしますから、鳳閣星とはタイプが  
異なる質をもっています。そう思ってお聴きください。

調舒星は「十大主星」のなかで、一番難しく、特に主星に  
もつ人の考え方を、理解するのは難しいといえます。

☞ そこで——つぎのように考えるとよいでしょう。

鳳閣はあるがままに伝達します ⇒ かりやすいです。

調舒はあるがまま伝達をしません ⇒ わかりにくいです。

あるがまま伝達しない——それは自分が想い描いているものを、あるがままに外へ出さないだけなのです。

この人の心の奥底には複雑な感情とか、ものごとを感じる気持ちが錯綜さくそうしています。

さまざまな想い、さまざまな思いが存在しています。

あるがまま直接的にいわないので、心の内面は複雑で葛藤かつとうが起りやすいのです。

胸の内を全部さらけ出してしまえば、あとスッキリしますよね——いかがでしょう……。

ところが——想い・思いおも おもをさらけ出さないで、却かえって、心中しんちゆうにいろいろな感情、想像、ドラマがひろがります。

それゆえに、心奥しんおうに種々しゅじゅの葛藤かつとうが交錯こうさくするということで、  
**空想**のある星です。

空想・想像に大変富んでいる星です。

参考・錯綜（物事が複雑に入り混じること）

参考・葛藤（心のなかにそれぞれ違った方向、あるいは相反する方向の欲求や考えがあって、その選択に迷う状態）

調舒星が2つあると、「哲学者の星」ともいわれます。

1つだけでも、その要素を内在するのに、2つもあると、哲学者に向くといわれている星です。

参考・哲学（宇宙や人生の究極の根本を客観的・理性的に追求する）

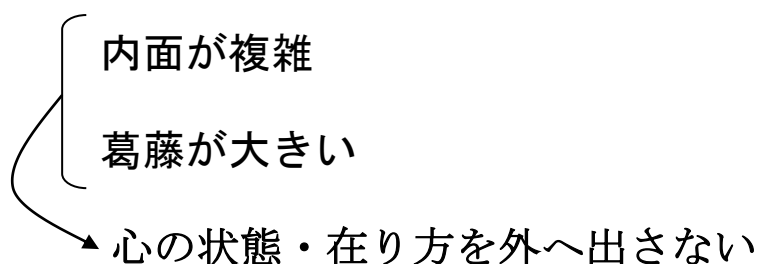
参考・哲学者（哲学の思索<sup>しさく</sup>や研究にたずさわる者）

この人が哲学者になるのか——どういう仕事に就くのか、それはまったくわかりませんが、普通の人よりもこの星は内面が複雑です。

**内面が複雑 ⇒ 葛藤が大きい**

あるがまま伝達しませんから、どうしてもいろいろな感情が自分の心のなかに交錯<sup>こうさく</sup>します。

心中に複雑な思い・思い、葛藤<sup>うずま</sup>が渦を巻いていても……  
在るが儘<sup>あまま</sup>に伝達しません。それを外に出しません。



特に主星が調舒星とか、調舒星が2つ以上あるとか ——  
そうになると、空想・想像はとても豊かですけど、心の内奥ないおうは  
複雑で葛藤が大きい人です。

ところが、奥深くひそ潜みたる葛藤をなかなか表に出さないの  
です。

ゆえに、一見、楽しそうに見えても、実はさまざまなこと  
で悩んでいる。そういうこともよくあるわけです。

がいめん外面は穏やかそうに見えても“怒っている”そういうこと  
もあります。

こころの内面が複雑で、空想・想像のチカラがあるという  
意味では：

### 感性が鋭い

十大主星のなかで、感性（心に深く感じる質）は、一番鋭い星  
です。

感性が鈍ければ、葛藤も起こらないし、内面が複雑にもならない  
でしょう。

調舒星の人は感性が鋭敏なので、普段の生活のなかでも、  
いろんなことに気づきます。しかし、口に出しません。

口にはださないけど、相手の欠点に気がついてしまったとか、相手が自分に嘘をついたら、それが嘘だということにも気がつくとか、いろいろなことについてです。

楽しいことに気づけば嬉しいし、心のなかはゆたかになるのですが、相手の欠点や、イヤなことも気づきます。

ほかの星よりも感性が鋭く敏感なために、葛藤が大きく膨らんでしまうとか、心のなかに存在するさまざまなおきが葛藤に結びついてしまう。ということも起こります。

その心底しんていをなかなか外には出しませんから、孤独の星ともいわれます。 参考・心底（本当のこころのうち）

### 孤独（ひとりぼっち）

このような特性をもっているということは、よくいえば、  
ひとりひとでいろいろなことを考える人、感性が鋭くて空想が豊かな人です。言葉をかえれば、神経質な人ともいえます。

### 神経質（こまごまと気にかける）

空想・想像が得意で神経質な星 —— それが調舒星の特徴だとおもってよろしいのです。

✽ 手塚治虫 1928(S3)-11-3 [1989-2-9] 60歳没

大運は2歳運の順まわり

	丁	壬	戊		調舒星	天堂星	2 癸亥
寅	未	戌	辰	鳳閣星	調舒星	調舒星	12 甲子
卯	丁	辛	乙	天南星	牽牛星	天印星	22 乙丑
	乙	丁	癸	右手		左手	32 丙寅
	己	戊	戊				42 丁卯
							52 戊辰
							62 己巳

陽占=人体図

陽占 第四命星〔調舒星〕、主星〔調舒星〕、第二命星〔牽牛星〕

第一命星・右手〔鳳閣星〕、第三命星・左手〔調舒星〕

陽占には、伝達の星〔鳳閣星 1つ〕〔調舒星 3つ〕あります。

空想が豊かで、感性が鋭い、おわかりになりますよね。

☞ おなじ生年月日の人たくさんいますが、両親が違います。

両親がいつ結婚したかでも違ってきます。育った環境が違います。

ゆえに、おなじ生年月日に生まれても生き方・運勢は異なります。

調舒星が主星の人、調舒星が多数ある人、あるいは、1個でもあれば、調舒星の質はどうぜんあります。



——調舒星をもっている人は、毎日の生活の中において、1人でゆっくりともものを考えたり、ときには空想したり、そういう独りの時間が必要だと考えています。

毎日の生活のなかで、1人になれる時間が全くない、という環境に置かれたら、ノイローゼになっていきます。

1人でゆっくり、いろいろなことを考えたり、空想・想像したりするのが好きですし、それが得意な星です。

1人でゆっくり好きな本を読むとか、1人でゆっくり好きな音楽を聴くとか、1日のなかで、そういう時間がたとえ15分でも、30分でもいいから必要な星と考えています。

独りの時間をまったく取れないと、調舒星の人は精神的に非常に追いつめられていきます。

もし、調舒星の人をやっつけようと思ったら、1人にさせなければいいわけです。

いつも誰かそばにいて話しかける、いつもまわりに気をつかわなくてはいけない、そういう状況に置かれてしまうと、ノイローゼになっていきます。やっつけないでよ。

さきほど——内面に潜む葛藤は複雑であっても、外にださないといいました。

本心をなかなか出そうとしない



なにを考えているのか、よくわからない人

に見えます。

こころのなかで、なにを考えているのか、よくわからない星の代表は調舒星です。

本心がわからない。

この人いったい……なにを考えているのかわからない。

あるいは、まわりから見て判断したとき、「この人の考えていることは、これだ——」と思っても、そうではない場合が多いのです。

さて……調舒星は誤解しやすい星でもあるのです。

調舒星が怒ったときの例えを挙げましたが、調舒星の人が怒りっぽいという意味ではありませんよ

鳳閣星であれば、怒ったとき……あるがままだに伝えようとしませんが、調舒星はあるがままだに伝えようとしません。

鳳閣星の人が怒った場合と、調舒星の人が怒った場合とはどちらが怖いでしょう。怒ったとき怒らせたときです。

怒ったときは、直接的に怒っているほうが怖いですよ。

つまり、鳳閣のほうが怖いのです。

調舒星は怒っても、表面的には怖くないです。それはあるがままの伝達をしないからです。

そうしますと、鳳閣星と調舒星の怒ったときを比較しての話としては——（怒ったときの例として）、

**鳳閣星 ⇒ 怖い（表面的）**

**調舒星 ⇒ 怖くない（表面的）**

怒ったときは鳳閣星の人のほうが怖いのです。それはあるがままの伝達だからです。

鳳閣星は“のんびり”といたしましたように、普段はのんびりですが、いったん怒らせたると、一直線で怒ります。

調舒星はあるがまま（表面的）に怒りません。

まず、こういう違いがあります。

鳳閣星は相手に一直線で文句をぶつけますが、鳳閣星自身は怒ることで（怒りをぶつけることで）スッキリします。

鳳閣星 ⇒ 直接怒りをぶつける → 後<sup>あと</sup>まで尾を引かない

〔たとえば〕もし何かのことで、鳳閣星の人を怒らせてしまったとします。

あのかた、すごく怒っていたから、「今夜——会うとなにかいわれそうだな……」と思いつつ、会ったら、気にしている様子もなくニコニコしている。それが鳳閣星の人です。さんざん怒ったから、スッキリしちゃったわけですよ。

⇒ 調舒星は怒ったときでも、恐くないといえます。

調舒星の怒り……本当は身体が震<sup>ふる</sup>えるほどに怒っているのに、怒ってないように見せたりします。

相手が「あなた怒<sup>き</sup>ってるの」と訊くと、「怒<sup>き</sup>ってない」って、応えたりするわけです。

怒っているときに、感情を相手にぶつければ、スッキリしますけど、調舒星は外へさらけだしません。

それが胸のうちにたまっていくわけです。

調舒星は思い切って、自分の気持ちを吐き出さないで、怒ったときは恐くないのですが、後々まで自分のなかに溜まって行きます。

調舒星 ⇒ 怒りをぶつけない → <sup>あとあと</sup>後々まで執念深い

鳳閣星の人が怒り始めたら、怒らせたほうがいいですね。いいたいことがあれば、言わしちゃう、そのほうが鳳閣星の怒りがほぐれます。

おなじ伝達の星ですが、鳳閣星と調舒星はこのような違いがあります。

さて、どっちのほうが恐ろしいのでしょうか？

☞ 調舒星は難しい星です。

調舒星が本当に怒っているときでも、相手の人から見ると

「この人……あまり怒ってない」と、思いやすいのです。

ところが——相手が「怒ってないの」と思ってしまうと、

調舒星の怒りは胸内でエスカレートするのです。

ここが難しいところです。

参考・エスカレート（段階的に拡大・増大するさま）

怒ったときに口を聞かない、話しかけられても無視する、そういう怒り方は、調舒星に限ったことではなく、どなたも、自ら経験したことがあるかと思えますけど……。

相手から話しかけられても口を聞かない、「怒ってんの！」と相手が訊<sup>き</sup>いて来ても、「怒ってない」と応<sup>こた</sup>えるのは何故でしょう。

調舒星は怒ったとき、どうして“あるがまま”に怒らないのでしょうか。何故そういう怒り方を選ぶのでしょうか。

いいたいことがあれば、それを吐き出してしまおうが、スッキリすると思えますけど、それをしないのは調舒星の特質です。

調舒星の感性は鋭く、神経が繊細<sup>せんさい</sup>で、胸内に複雑<sup>むねうち</sup>なおもいがあります。それは葛藤であり、ドラマですから「私は怒っています」と、そんな単純な言葉で、思い・想い・気持ちを、とても表現しきれないのです。

空想・想像は得意ですから、“怒り”というおもいが大きく膨らんでいきます。 参考・思い（頭で考えて、心で感じる）

参考・想い（繊細な姿・形を心に浮かべ描く）

「わたし怒ってんの」そんな単純な心<sup>こころ</sup>もちではないのです。  
怒りのなかには、不快・悦<sup>よろこ</sup>び・悲しみなどの感情、おもいが錯綜しているわけです。

どうして怒っているのか、どの程度怒っているのか——、  
[これについては怒ってない][これについては怒っている]と、  
錯綜するために、自分の本心がどこにあるのか……自分でもよくわからないのです。

ゆえに、そのような、怒りの感情になると考えています。

☞ 調舒星は伝達の星です。

主体性がない伝達といっても、伝達の星ですから、本当は相手にわかってもらいたいのです。

[本心を相手に知られたくない] だから黙っているのではなくて——、

[本心を相手に知って欲しい] だから黙っているのです。

自分が怒ったときに、相手が話しかけてきても応<sup>こた</sup>えない、  
口を聞かない。

その姿は、[自分がどれほど怒っているのか] ということ、  
伝えようとしているのです。

「わたし怒ってんのよ」と言葉でいっても、自分のなかの複雑な気持ちが相手に伝わらないので、あえて口を利かない、応じない・無視する——という姿で、怒りの伝達をするわけです。

参考・気持ち〔物事に接して、それに対して感じた心の在り方（心の状態）〕

このような感情の流動、おわかりになりますでしょうか。本当は相手に知って欲しいわけです。

自分の心の姿を知って欲しい——ちゃんとわかってもらいたいわけです。

自分が言おうとしている胸のうちを、相手が深くわかってくれないとイヤなんです。

調舒星 ⇒ 怖くないけど → <sup>あとあと</sup>後々まで執念深い



本当は、相手に自分の気持ちをわかって欲しい

でも、これって、怖いことですよね。

伝達をして理解してもらいたのです。だけど、この人は、普通の人より繊細で複雑なので、単純に「わかったわ」と



というような、相手のわかり方では、自分の気持を伝えたことにはならないのです。

「怒ってんのよ」といって、「ああ、貴方怒ってんのね、あっそうゴメンナサイね」そんな表面的な謝罪の気持ちでは、自分の内面で起こっている葛藤の気持ちをわかってもらったことにはならないのです。

自分が怒っていることを、ちゃんと相手にわかってもらうためには、どうしても、曲線的は伝達になってしまうわけです。

「もっと深く考えてよ、反省してよ」となるわけです。

このときに ⇒ 相手がわかろうとしないと余計に怒る

具体的にはつぎのような意味です。

調舒星の人が怒っていたときに〔たとえば〕口を聞かない怒り方しているとします。

それを感じた相手が「あなた怒ってんの」って聞いてきて

「怒ってなんかないわよ」と調舒星の人がいったとします。

相手は「怒ってないのねよかったわ」それで済ましたら、

よけいに怒ります。 さきほどと重複していますけど。

⇒ 実際は——口を利きたくないくらい怒っている調舒星の人に、「怒ってる？」って聞いたら、「怒ってない」って応えたので、「あら、怒ってないのね、よかったわ」と、そのように単純に済まされてしまうようなことになれば、  
あとあと うら いだ  
 後々まで恨みを抱きます。

⇒ 2004 (H16) 年 6 月 1 日——同級生の首をカッターナイフで殺害した加害者 辻 の主星は調舒星で、第四命星にも調舒星があります。人体図に調舒星が2つあります。

被害者 御手洗 の主星は鳳閣星です。

<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">辻 菜摘</span>			<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">御手洗 怜美</span>		
	調舒星	天将星		車騎星	天胡星
龍高星	調舒星	石門星	龍高星	鳳閣星	禄存星
天印星	貫索星	天恍星	天貴星	龍高星	天南星

⇒ 干支暦をつかって宿命をだすと下記のようになります。

✽ 辻 菜摘 1992(h4) 加害者〔当時11歳〕

大運は5歳運の順まわり

	辛	辛	壬		調舒星	天将星	5 庚戌
辰	丑	亥	申	龍高星	調舒星	石門星	15 己酉
巳	癸		乙	天印星	貫索星	天印星	25 戊申
	辛	甲	癸				35 丁未
	己	壬	戊				45 丙午
							55 乙巳

✽ 御手洗 怜美 1992(h4) 被害者〔当時12歳〕

大運は6歳運の逆まわり

	丙	甲	壬		車騎星	天胡星	6 癸卯
戌	寅	辰	申	龍高星	鳳閣星	禄存星	16 壬寅
亥	戊	乙	戊	天貴星	龍高星	天南星	
	丙	癸	壬				
	甲	戊	庚				

⇒ 2004年6月1日の事件に話をもどします。

お断りしておきますけど、算命学の勉強としての話です。

御手洗怜美さんを殺害した加害者の辻菜摘さんが悪いわけですが、辻さんの主星は調舒星で人体図には2つあります。このような人体図をもつ人が殺人という犯行、あるいは、相手を傷つけたりするようなことになるのであれば——それは交友関係の過程のなかで、相当に溜まったものがあつたと考えられます。

加害者の辻さんの肩を持つわけではないのですが、御手洗さんが、[たとえば] 辻さんの心を傷つけたり、辻さんをバカにしたり、そういうことが、度々あつたものと考えられます。

そのたびに[辻さんは怒っていないような振りをした][怒っていても、その怒りの気持ちを相手にぶつけなかった] それゆえに、相手が辻さんの<sup>むねうち</sup>胸内を理解できなかったと考えられます。

御手洗さんの人体図を算出してみますと、主星が鳳閣星です。

鳳閣星はストレートな伝達の星です。おもっていることを直接的に表現します。つまり相手に対して、いいたいことを言っていたと考えられます。

加害者の辻さんのほうは、いまの自分の気持ちを汲み取ってもらいたい、わかってもらいたいと願う、それが調舒星です。

御手洗さんは「辻さんが怒っている」とはおもっていなかったはずです。怒っていると感じない・おもわないから、エスカレートして相手が傷つくようなことをいってしまう。辻さんのところが傷ついているなんてことを、考えてもいませんから、輪をかけて言ってしまうわけです。

そうになると、加害者の女子の心奥しんおうには、どんどん恨みが溜まっていくわけです。このような凶式だと考えられます。

☞ これは誤解のないように申し上げておきます。

調舒星をもつ人は犯罪をおかす、ということではないですよ。

むしろ、その星を稼働かどうさせて、手塚治虫氏のように見事な世界を想像し、描き、表現する人もいるわけです。

クリエイターとして活躍する人もいますし、芸術家、歌手にも多いです。

美空ひばりは、両手に調舒星・鳳閣星をもっています。

この星をもっていなければ表現できない世界を、彼女は実に見事な唱力で、聴衆の心を惹きつけます。

調舒星イコール犯罪に結びつけないでください。

くれぐれも誤解のないように、星を観ていただきたいのです。

＊ 澤田 美喜 1901 (M34) 9-19 [1980-5-12 没] 78 歳

大運は7歳運の順まわり

庚	丁	辛		石門星	天庫星	7 戊戌
辰	子	酉	丑	調舒星	石門星	17 己亥
巳		癸		天極星	牽牛星	27 庚子
		辛				37 辛丑
	癸	辛	己			47 壬寅
						57 癸卯
						67 甲辰
						77 乙巳

岩崎弥太郎の孫娘、三菱財閥三代目総帥・岩崎久弥男爵の長女として生まれる。戦後、戦災孤児の養育に一生を捧げています。

調舒星は神とおぼしき愛をもちます。 ネットで彼女を検索してください。

☞ 話をもどします。

〔たとえば〕子どもが死ぬとか、子どもが犯罪をおかすとか——それは子供よりも、むしろ親の宿命に原因があることが多い、そのように算命学は考えています。

親のほうにそうさせるような原因があるわけです。

この加害者は、主星が調舒星で人体図に2つある子だったので、調舒星の特質として、葛藤と苦悩が内面に溜<sup>た</sup>まっていく、そういうところだけはわかるわけです。

それが殺害までとなると——本人よりも、親のほうの運勢に問題があると考えます。

先ほど——鳳閣星と調舒星が怒ったときの部分だけを取り出してご説明しましたが、誤解しないでいただきたいのは調舒星に怒りやすい星という意味はありません。

怒るような事象がなければ、怒る必要はないのです。

つまり、調舒星は（陰）の伝達の星であって、まわりみちなのですが、相手にわかって欲しいのです。

調舒星の人の気持ちをわかってあげると、心を開いてくれます。



非常にやさしい人になる

調舒星の人は、ほかの人よりも奥深いところが複雑です。その部分をおしはかってあげると、すごくやさしい人になります。

澤田美喜氏は人種の差別なく戦争孤児に平等に接したのです。

鳳閣星のところで、仕事について共通の意味をご説明しましたが——さらに調舒星はつぎのようにも考えます。

調舒星が主星の人、調舒星が人体図にいくつもある人は、空想・想像を生かしたような仕事には、とても向いています。その分野に才能をだします。

＊ 藤子 不二雄 1933(S8) 12-1 [1996-9-23 没] 62 歳

大運は8歳運の逆まわり

辛	癸	癸	鳳閣星	天禄星	8 壬戌
辰	丑	亥	調舒星	調舒星	18 辛酉
巳	癸		天印星	鳳閣星	28 庚申
	辛	甲			38 己未
	己	壬			48 戊午
		辛			58 丁巳
					68 丙辰

「ドラえもん」の藤子藤雄さんは亡くなりましたけど、鳳閣・調舒が全部で3つあります。



そのような仕事は、いくつもありますが、「哲学者の星」ともいわれる星です。

調舒星をもつすべての人が、哲学者になるということでは、もちろんありませんが、実際に哲学者には調舒星をもっている人が多いです。

＊ パスカル 1623-6-19

	辛	戊	癸		鳳閣星	天恍星
寅	亥	午	亥	調舒星	龍高星	調舒星
卯			癸	天恍星	玉堂星	天胡星
	甲	己	甲			
	壬	丁	壬			

＊ カント 1724-4-22

	癸	戊	甲		調舒星	天印星
辰	卯	辰	辰	鳳閣星	牽牛星	牽牛星
巳		乙	乙	天貴星	牽牛星	天印星
		癸	癸			
	乙	戊	戊			

## \* ニーチェ 1844-10-15

	戊	甲	甲		車騎星	天南星
戌	辰	戌	辰	牽牛星	調舒星	牽牛星
亥	乙	辛	乙	天南星	車騎星	天庫星
	癸	丁	癸			
	戊	戊	戊			

## \* サルトル 1905-6-21

	辛	壬	乙		禄存星	天極星
午	卯	午	巳	禄存星	龍高星	牽牛星
未			戊	天馳星	調舒星	天胡星
		己	庚			
	乙	丁				

「人間は考える<sup>あし</sup>葦である」といったパスカル。

ドイツの哲学者、カントも調舒星をもっています。

ニーチェも調舒星が主星です。(ドイツ、超人主義・キリスト教的道徳を排し、権力意志を強調、強者の道徳によってのみ人は超人の域に達しうる)

サルトルも調舒星があります。

空想・想像して——心のなかに思い浮かぶ印象によって、何かを描くとか、何かを彫るとか、いろいろあるでしょうが、心に深く感じる——なにかを表現する分野では、特出した才能を発揮できる星です。

空想・想像のチカラがあって、感性が鋭いわけですから、それを表現する能力を求められる仕事にはとても向いています。

算命学でいう「精神的な分野」というのは、感性をつかう分野と解釈するとよいでしょう。感性（心の内奥に深く感じること）

⇒ 調舒星を人物でいうと——〔鳳閣星とおなじです〕

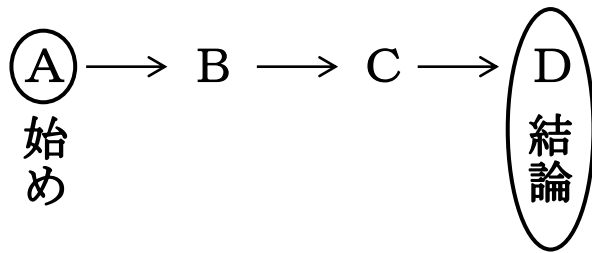
**調舒星の人物 ⇒ 子ども・目下**

子どもの星、目下の星というふうに考えていきます。

調舒星の思考法……………

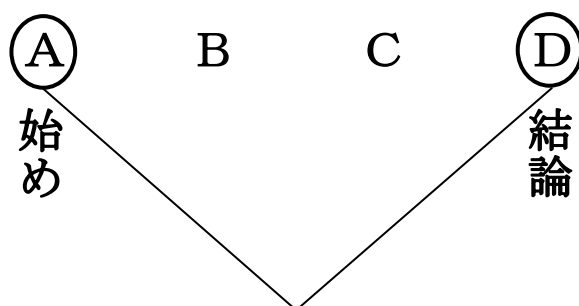
**思考法 ⇒ 点から点への思考**

ものの考え方は、点から……点へと……<sup>おも</sup>思い<sup>めぐ</sup>巡らすようだという事なのです。



普通は、Aが始めだと考えたら、つぎはBだな、と考えるようになって、つぎはCだと、結局はDだな、というふうに考えていくかと思います。

調舒星の思考は、点から……点へ……ということですからこのときにまわりの人には、



まわりの人にはここしかわからない

Aの部分と、Dの部分しか見えないわけです。

「風が吹けば桶屋が儲かる」という『ことわざ』にたとえますと、風が吹くと、砂埃が舞って、それが目に入るので、眼病を患って盲人がふえ、目が見えない人が増える。盲人は三味線を弾くので、

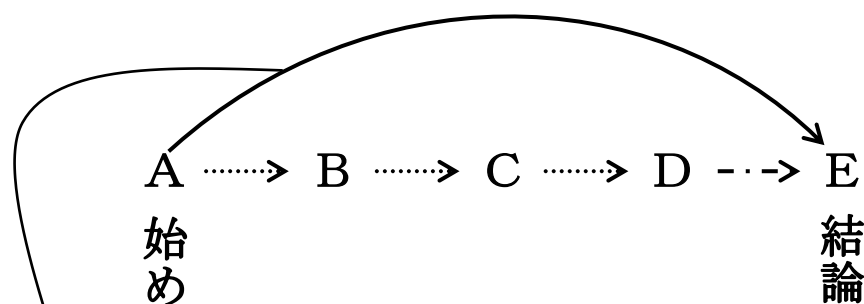
三味線に張る猫の皮が必要で、猫が減り、そのためネズミが増えて桶をかじるので、桶を買う人が増えて桶屋が儲かる。という話があるわけです。

ところが——なんで桶屋が儲かるのか——という——その理由がスッポリ抜けているわけです。

まるで、点から……点へ……話しが飛んでしまって、中間がないわけです。

まわりの人から見れば、調舒星の人の思考経路<sup>けいろ</sup>が見えないのです。どうして、この人はこんなふうに考えるのか——わからないわけです。

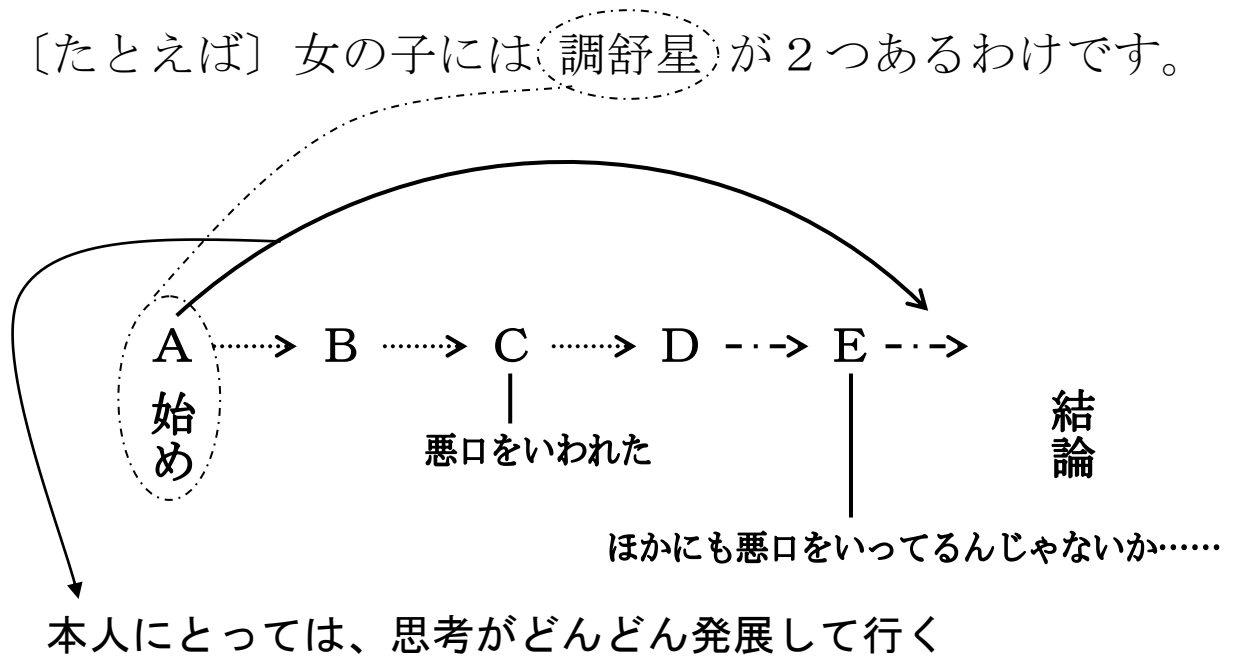
しかし、本人の思考回路<sup>かいろ</sup>は全部つながっています。本人の思考は——むしろどんどん発展していきます。



本人にとっては、思考がどんどん発展して行く

Aの考え方をして、つぎにBの考え方、そしてCの考え方になって、Dかな……結局はEの考え方になって行く、というように、自然にどんどん思考が発展して行くわけです。ゆえに、調舒星の特質が見事に良くでる場合もあれば——悪く出てしまう場合もあります。

〔たとえば〕女の子には、**調舒星**が2つあるわけです。



Aのところで、なにか悪口をいわれたとします。

悪口をホームページに書き込まれたとなると——その子の、内面でBから……Cへ……D → E → どんどん思考が発展して行くわけです。

例えばですけど〔加害者の女の子が自分を学校に来られないようにしているんじゃないか〕とか、ないおう内奥の葛藤が激しく

さくそう  
錯綜して、どんどん考えが発展して行ってしまいます。

——その思考が良いほうに発展していけば、それは見事な作品につながります。

ところが、悪いほうへ発展すると、被害妄想とか、それが原因でノイローゼになってしまうとか、そういう可能性も否定できないのが調舒星です。

あたまのよい星で、思考力がある星です。

だからといって、それが良いほうへでるとは決まっていな  
いのです。

しんおう  
心奥に描いた思考が良いほうにでると、みごと たいりん はな  
見事に大輪の花を  
咲かせるでしょう。

……占うときも難しい星です。

＊ フィンセント・ファン・ゴッホ 1853-3-30 1890-7-29 [37歳没]

大運は9歳運の逆まわり

丙	乙	癸		牽牛星	天印星	9	甲寅
辰	申	卯	丑	禄存星	玉堂星	19	癸丑
巳	戊		癸	天胡星	玉堂星	29	壬子
	壬		辛			39	辛亥
	庚	乙	己			49	庚戌

ゴッホは自分の<sup>じだ</sup>耳朶を切り落としています。

絵の具を買うお金もなく、凄まじい独自の<sup>い</sup>生き<sup>ざま</sup>様です。

【初年】 30回目【十大主星特性②】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 31回目【十大主星特性③】 禄存星・司禄星